薬学科

薬物治療学Ⅱ　Pharmacotherapy Ⅱ　　新

医療科目　3 年／前期　1.5 単位　必修科目

科目責任者　**大野　恵子（薬剤情報解析学研究室）**

■ 教育目的
主な疾患の病態生理の概略を把握し、個々の患者の病態に即した薬物治療計画が立案できる能力を養うために、炎症/免疫疾患・感覚器疾患・呼吸器疾患・消化器疾患の病態、診断、治療に使用される主要な医薬品の臨床適応、重大な有害事象、使用上の注意点など理解する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②, ③】

■ 学習到達目標
1. 主な疾患の病態とリスク因子を把握し、治療のゴール、適切な治療（非薬物治療・薬物治療）を提案できる。（知識・技能）
2. 主な疾患の薬物治療において、効果及び副作用に関するモニタリング方法を列挙できる。（知識・技能）
3. 主な疾患の薬物治療において、患者が安全でかつ有効な薬物治療を行えるよう、服薬説明すべき内容を具体的に述べられる。（知識・技能）

■ 準備学習（予習・復習）
予習：関連する病態生理学、薬理学（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）について、講義プリント等を用いて復習しておく（30 分以上)。
復習：講義プリントをもう一度読み直し（20 分以上)、講義で例示した症例について、治療計画を立案してみる（30 分以上)。

■ 授業内容
炎症と免疫疾患、感覚器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患において、薬物治療計画を立案するために必要とされる基本的内容をマルチメディアを活用して講義する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	炎症と免疫疾患 1	アレルギー疾患Ⅰ（アナフィラキシー、花粉症など）	E2(2)-②-3 E2(6)-③-1
2	炎症と免疫疾患 2	アレルギー疾患Ⅱ（アトピー性皮膚炎など）、薬物アレルギー（スティーブンス-ジョンソン症候群など）	E2(2)-②-4,5
3	炎症と免疫疾患 3	自己免疫疾患Ⅰ（関節リウマチなど）	E2(2)-②-8、③-1
4	炎症と免疫疾患 4	自己免疫疾患Ⅱ（全身性エリテマトーデスなど）	E2(2)-②-6,7,8
5	感覚器疾患 1	眼疾患Ⅰ（緑内障、白内障など）	E2(6)-①-1,2
6	感覚器疾患 2	眼疾患Ⅱ（加齢黄斑変性、ドライアイなど)、耳鼻咽喉科疾患（めまい、メニエール病など）	E2(6)-①-3,4 E2(6)-②-1
7	呼吸器疾患 1	呼吸器疾患総論、気管支喘息	E2(4)-①-1
8	呼吸器疾患 2	慢性閉塞性肺疾患、ニコチン依存症、間質性肺炎	E2(4)-①-1,2,3
9	消化器疾患 1	消化器疾患総論、消化性潰瘍Ⅰ	E2(4)-②-1
10	消化器疾患 2	消化性潰瘍Ⅱ、胃食道逆流症、胃炎など	E2(4)-②-1
11	消化器疾患 3	便秘・下痢、痔	E2(4)-②-7,9
12	消化器疾患 4	過敏性腸症候群、炎症性腸疾患	E2(4)-②-2,6
13	消化器疾患 5	肝炎・肝硬変Ⅰ	E2(4)-②-3 E2(7)-④-4
14	消化器疾患 6	肝炎・肝硬変Ⅱ、薬剤性肝障害、胆囊・膵臓疾患	E2(4)-②-3,4,5
15	栄養療法概論	栄養療法の概念と基本的事項の解説	F(3)-③-5,6

■ 授業分担者
大野　恵子（No.1～2, 5～6, No.9～14)、鈴木　陽介（No.3～4, No.7～8)、学外講師（No.15)

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法
講義内容については、随時、オフィスアワー等を活用して、個別に質問等を受け付ける。
学期末試験（100 %）で総合評価を行う。レポート等があれば、それも考慮する。

■ 教科書
講義プリント

■ 参考書
病態生理学や薬理学（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）で使用した教科書・講義プリント（明治薬科大学)、『今日の診療』（My-port ＞図書館）
『病気と薬物療法　消化器疾患、呼吸器疾患／免疫疾患、泌尿器・生殖器疾患／感覚器疾患』（オーム社）
『症例で身につける臨床薬学ハンドブック 改訂第 3 版』（羊土社）